

タイトル:平成 24(2012)年度 教育セミナー

日時:平成 24 年 9 月 14 日(金)～17 日(月・祝)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究 3 階 マルチメディア会議室(304)

上野 愛実(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

東京外国語大学で学部時代を過ごした私は、AA研のセミナー自体は以前より知っていました。しかし、大学院進学後は、フィールド調査など日程の都合でなかなか参加することができず、博士後期課程 1 年目にあたり、今回初めて参加させていただくことができました。長期留学を直前に控え、個人的に慌しい状況での参加となってしまったのですが、セミナー終了後の今は、渡航前にこのような機会に恵まれたことを本当に幸運であったと思っています。

日頃、お会いすることができないような先生方の貴重なご講義、また同世代の学生による研究発表は、修士論文を執筆した後、研究を行うという行為への畏れや途方もなさを前に立ち往生していた私に、非常に有意義な示唆を与えてくれたように思います。

例えば、南タイのイスラーム復興に関する西井先生のお話からは、ダッワ運動というインドから起こったイスラーム復興の動きと、それを取り巻く人々の多様な関係性といった興味深い事象に加え、文化人類学者としてのフィールドとの付き合い方についても伺うことができました。「文化人類学者は偶然を必然に変える」というお話からは、先生が縁を大事にし、長い時間をかけて対象や地域と真摯に向き合っていていっしょの姿を窺い知ることができました。イスラエル／パレスチナ研究をなさっている錦田先生も、紛争地域という極めて重要な、議論の多い地域をめぐる研究をされる際の、研究(地域)への「コミットメント」に関するご自身のお考えをお話して下さいました。こうした、論文や研究書を読むだけではわからない、先生方がご苦労されたことや研究の裏話などを共有していただいたことで、現在、自分が抱えている問題を、客観的に見つめ直す機会を得ることとなりました。

他にも、トルコ・イスラームの様相を男女関係や性の視点からご発表下さいました中山先生のお話からは、フィールド調査における注意点等、具体的なアドバイスを頂くことができました。聞き取り調査に関する受講生の質問に対し、先生方が「あせらず、時間をかけること」とご回答しており、このことは、無意識に、短時間で効率よく調査をしたいと思っていた、研究に対する自分の焦燥感や不遜な態度を戒めるよい機会となりました。このように、例を挙げるときりがありませんが、セミナーに参加されていた先生方のお話や発表者へのご指摘の一つひとつは、まだ何もわからない私にも非常に重く響き、今後も先生方のお言葉を忘れないよう、研究に励みたいと思います。

最後になりましたが、ご講義・ご指南をして下さった先生方、事務局の千葉さんに深く感謝の意を申し上げます。どうも有難うございました。

大石 海（東京外国語大学大学院総合国際学研究科）

大学内で教育セミナーのポスターをはじめて見たとき、最初そこに描かれている絵画に見入ってしまいました。それがアジア・アフリカ言語文化研究所主催のセミナーであることを知ったのは、2 回目にポスターを見たときでした。

セミナー期間中は、受講生の方々の発表を聞いては、「このような場で発表できるまでに練り上げていてすごいなあ」と感心し、そうではない自分自身を振り返って反省していました。また、それぞれの発表のあとの先生方の受講生にたいする質問・アドバイス等は、私が考えもつかなかった視点・切り口からのものであり、そうした先生方のコメントを聞くことができたということが、今回の教育セミナーの一番の収穫といっても過言ではありません。レジュメの作成方法等、形式的な部分もその都度細かく説明してくださり、大変ありがたかったです。

また、先生方の講義では、さまざまなテーマ・分野のお話を聴くことができました。発表の作法についても大変勉強になりました。さらに先生方がお話した、ある対象を研究なさろうと思ったきっかけや経緯なども興味深く感じられました。このことは私に、自分がなぜ、今、この研究をするのかという根本的な問いを、改めてそして徹底的に思考しなければならないということを認識させてくれました。

このセミナーには、全国からイスラームあるいは中東研究を志す受講生の方々が集いました。懇親会やお昼休みなどに、彼ら・彼女らと互いの研究テーマについて意見交換をすることができ、自らの知見が深まりました。このように多くの方がイスラーム研究を目指しているということを知り、若干の安堵感を持つと同時に、自分自身も彼ら・彼女らに負けていけないという、プラスの対抗意識あるいは危機感を抱くことができました。教育セミナーの4 日間は、私にとってとても濃く、充実したものとなりました。

最後にこの場をお借りして、このような機会を設けてくださった先生方、また事務局の千葉さんに感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

高橋 信哉(拓殖大学大学院修士課程修了)

①フィールド・ワークについてと今後の方針

今回のセミナー期間中に何度か、フィールド・ワークについての重要な説明があった。私自身は、現地でのフィールド・ワークの経験に乏しいので、自分がフィールド・ワークをするにあたって「どのような点」に気をつけ、「どのような立場の人」にインタビューをし、「論文にどのように反映するか」などについての詳細な学習をすることができた。

学部、修士と国際関係論の分野だったのであるが、縁があって中東研究に携わるようになった。国際関係論は、理論をもとに分析を試みるのであるが、それだけでは見えない部分または、見落とす部分などもある。そのためには、現地の一次資料にあたりながら、理論と地域研究を組み合わせた研究をしていくことが重要になってくる。それが今後 10 年間の目標であり、課題であると今回のセミナーで再認識することができた。

②2010 年教育セミナー参加者との関係構築

2010 年の教育セミナーの参加者(2010 年参加者のうちの 7 割)とセミナー終了後に、独自に研究会を開始して、既に 2 年を経ようとしている。そのときの参加者たちの多数は、博士課程に進学して自己の研究の研鑽に努めている。そして、私自身も研究活動に行き詰ったり、そのほかの面でも、2010 年セミナー参加者たちに助けられている。

2010 年セミナー参加者の方とは理想的な関係を構築できた。さらに、今後も一緒に同じ道に進んでいく仲間という財産を手に入れることができた。

そのきっかけを与えてくれた教育セミナーには、心より感謝をしております。

最後に、ご指導、今後の方針などを示していただきました、諸先生方、セミナーの開始前と期間中にお世話になりました FSC 事務局 千葉さんに、御礼申し上げます。

中島 梨紗（東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻修士2年）

教育セミナーには、今回初めて参加させていただきました。普段はこれほどイスラーム地域を研究している方々とお会いすることはないので、皆さんの研究発表や講義を拝聴することができて、非常に貴重な経験となりました。

同じイスラーム地域を研究しているとはいえ、場所も年代も全く違う分野の研究のなされ方は、自分にとって新しく、ずいぶん勉強になりました。いつもはどうしても、自分の研究のことばかりきりで、他の地域、時代にあまり目を向けられていないのですが、今回のセミナーでは新しい発見がいくつもありました。研究の取り組み方やその内容だけでなく、イスラーム地域に関して広い視野が得られるのも、このセミナーの魅力だと思います。

また、他の学生の方や先生方と、質疑応答や懇談会などで、コミュニケーションをとれたのも非常に良かったです。報告後には、質疑応答の時間が相当に与えられていたので、様々な質問やアドバイスが双方向的になされていました。私は今回発表をしなかったのですが、発表するにあたり、このように多くの研究者から意見が聞けたのは、発表者にとっても非常に勉強になることだったと思います。次に参加する機会があれば、是非発表したいです。

そして、このセミナーに参加させていただいたことは、自分の研究を反省する良い機会になりました。学生の皆さんの発表をお聞きして、自分がまだまだ勉強不足であることを痛感させられました。私は、修士2年になってから研究のテーマを変えたのですが、受講生の方の研究の進み具合に対して、大きな差や焦りを感じました。まだまだ先は長そうですが、これからしっかりと修論が書けるように頑張っていきたいです。

最後に、研究セミナーに関わる全ての方々にお礼を申し上げたいと思います。どうもありがとうございます。非常に濃厚な4日間を過ごすことができました。自分の研究を見つめなおす良い機会になりましたし、イスラーム地域についてもより広い視野を得られました。ここで得られたものを大切にしながら、今後の研究に励みたいと思います。

永山 明子（東京外国語大学大学院博士前期課程）

中東☆イスラーム教育セミナーには、2009 年度にも一度参加させて頂いており、この度で二度目の参加となりました。

前回参加させて頂いた際に印象に残った点の 1 つが、普段あまり触れる機会のないさまざまな研究に触れる機会を持てたことのありがたさでした。今回のセミナーでも、個々の研究においては前回とはそれぞれ異なった、しかし同じくらい多様な研究に触れることができたように思います。

普段、地域も時代もディシプリンも自分とは異なる研究に、これだけ一度に接することができる機会というのは、なかなか得難いものであると思います。特に、修士論文の提出を控え、ともすれば修士論文に直接的に関係する非常に狭い範囲にしか目が行かなくなりがちであった私にとって、この 4 日間のセミナーは、視点を広げることの重要性を改めて示唆してくれるものとなりました。

また、各発表者の発表の後には、今回も大変活発な質疑が交わされました。今回はその中で何度か、分析概念や用語の定義といった問題が挙げられましたが、これらは自分の研究を見直す際に意識すべき点であると感じました。このような質疑応答から得た多くの示唆や、受講者や先生方の発表を通して学んだプレゼンテーションのノウハウなど、セミナーで得たことを無駄にすることなく、修士論文の執筆及び今後の研究に活かしていきたいと思います。

今回は、二度目の参加にも関わらず発表することができなかったこと、初日の懇親会を含む交流の場に参加することができなかったことが大きな心残りとなりました。昼食時などに一部の受講生の方々や先生方とお話をする機会を得ることができましたが、また機会があれば、発表や交流の場に多く参加することで、互いの研究についての意見をより活発に交換したいと思います。

末筆ながら、研究内容のみならず、研究手法など多くのご教授をくださった先生方と、セミナーが円滑に進むよう尽力してくださった千葉さん並びにスタッフの方々に、深く感謝の意を申し上げます。ありがとうございました。

西舘 康平(東京外国語大学大学院総合国際学研究所)

今回初めて中東☆イスラーム教育セミナーに参加させていただいた。毎年全国津々浦々から各分野の先端に行く研究者および院生の方々が本セミナーに参加されるというが、研究とは名ばかりで日々の生活と課題に追われ気力だけを消耗していた私にとっては、本セミナーが自らを奮い立たせる良質なカンプル剤として、また普段お会いすることのない先生方ともお話できる機会が設けられるということもあって、応募の張り紙を見るや否やすぐさま応募した次第である。

[セミナー期間中]

四日間というスケジュールの中で行われた今回のセミナーであるが、発表していただいた先生方ならびに発表者の方々の発表を通して、様々なことを学ぶことができた。「こんな考え方があったのか!?!」、「こんな視点があったなんて!!」と毎日が驚きと興奮の連続であった。学べるものは学べるだけ持って帰ろうと意気込み勇んで参加した次第である。

ここで全ての発表者の方々の発表を紹介することはしないが、以下に個人的関心に沿った形ではあるがいくつか発表者の内容を挙げてみたい。まず始めに、中山 紀子「トルコの男女関係をめぐる諸問題」は非常に興味深い発表であった。トルコの地方村における男女関係という内容であったが、内容はもちろんのこと、外国ましてや地方に赴きそこで現地の人たちと直接対話を交わし、自らを日常に溶け込ませて、コミュニティーの内側から研究を進めている姿勢に深い感銘を受けた。次に、佐藤 耕太郎「ムスリム同胞団のエリート養成一戦間期のエジプト社会」が個人的に興味深い発表であった。私自身がエジプトを研究対象にしていることが理由ではあるが、今までムスリム同胞団の存在を知りつつ、その深い組織的構造、地方における社会貢献の度合いの高さ、中央政府からの規制をかいくぐった政治参加など、無視できない存在であるにもかかわらず、深く知らなかった私にとっては非常に勉強になった。他にも多くの発表者の方々から、新しい視点、考え方、研究の進め方、はたまた研究者としての生き方など、研究に限らず個人的な相談にまで亘り教を乞うことができたのは非常に光栄であった。発表していただいた先生方、また発表者の方々には僭越ながらこの場を借りてお礼を申し上げたい。

[セミナーを通じて学んだこと]

種々折々の分野で研究者を志す学生が数多く参加し、開催期間中の先生方および発表者の方々から普段聞くことのない内容でもあったがために、痛快なる新鮮さを感じたことは言うまでもない。しかしながら、日々行われる発表を目の当たりにし、それに感慨深く傾き、高度な議論に参加できる喜々の情感を感じましたが、一方で後悔し始めたのも事実であった。今回私が最も反省したことは、発表者として参加しなかったことである。来年は是非とも参加させていただきたい。

山口 南（東京外国語大学大学院総合国際学研究科）

私が本セミナーを受講した理由は、自分の研究テーマや対象地域のための狭い分野に縛られるのではなく、幅広い知識を得たいと考えたためでした。本大学のトルコ語学科を卒業し、その後トルコでの勤務と、長い間トルコにばかりとらわれていましたが、その後、仕事の関係で東南アジア、アフリカなどの開発援助事業に触れたことがきっかけで、一つの地域に限定された知識だけではなく、それを起点として、視野をより広く広げたいと思うようになりました。また、トルコという地域においても、視野の狭さから見えていなかった、関心の持てなかった事象が多数あったのだということに気づき、大学院に入学したのですが、このセミナーはそのような期待や目的に真正面から応えてくれるものであり、研究者の素質もなさそうな自分が大学院に入って良かったのか、などという瑣末な悩みなど吹き飛ばすほど、知る楽しみや充実感にあふれたものでした。

また、EU 加盟交渉や欧州人権裁判所を通して、ヨーロッパの枠組みの中でのトルコ、ヨーロッパ対トルコという視点には比較的親しんでいましたが、中東という枠組みをどのようにとらえるか、中東地域の中でのトルコとはどういうものかという視点はとらえどころがなく、修了までの課題とと思っていましたが、本セミナーで他の中東地域の多様な研究発表を聞くことができ、そのきっかけを得ることができたように思います。

さらには、今回は聴講生として参加をさせていただきましたが、先生方の的確で鋭い質問、他の受講生の発表や質問のやり取りなどの積極的な姿勢に刺激を受け、研究発表への臨み方や文献の読み方、参考文献の書き方など、今さら聞きづらいようなことも学ぶことができました。

このような貴重な知識や視野が得られただけでなく、このセミナーの成果としては、講義だけではなく、昼食時間や懇親会などで学生同士や先生方との交流の機会が得られたことも大きいと感じました。私の参加するゼミにはトルコを対象地域にする学生のみが所属しており、また国際協力や国際法などの授業では中東地域を対象にした学生はほとんどいないため、中東の他の地域を対象とする方や他大学の学生の方と知り合うことができ、懇親会で打ち解けることができたことは大変貴重な機会でした。まだ実現はできていませんが、読書会の計画も出ており、ぜひ近いうちに実現したいと思います。

最後にこの場をお借りしての私信となりますが、先生方、事務局の千葉様には大変お世話になり、心から感謝申し上げます。来年も是非受講をしたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。